

インフルエンザ予防接種について（説明書）

※ 予防接種を受ける前に必ず読んでください。説明書を読んでいない場合、接種を受けることができません。

また、予診票は、医師が接種の可否を決めるための大切な情報です。接種を受けるご本人が責任をもって記入してください。

インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこります。通常、初冬から春先に流行します。普通の風邪に比べて、全身症状が強く、気管支炎や肺炎などの合併症を併発し、重症化することが多いのも特徴です。

インフルエンザの予防

- 体の抵抗力をつける
 - ・十分な栄養と休養をとりストレスをためない。
- ウイルスをもらわない
 - ・人混みを避け、室内の乾燥に気をつける。
 - ・マスクを着用し、手洗いとうがいをする。
- 空気の乾燥を防ぐ
 - ・室内では加湿器などを使って適度な湿度を保つ。
- 免疫をつける予防接種を受ける
 - ・ワクチン接種によりインフルエンザによる合併症を予防し、健康被害を最小限に食い止めることができる。

インフルエンザ予防接種の有効性

インフルエンザの重症化や合併症の発生を予防する効果があります。

インフルエンザ予防接種の副反応

注射の跡が赤みを帯びたり、腫れたり、痛んだりすることがあります。また、わずかながら熱がでたり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。接種後、数日から2週間以内に発熱、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れるなどの報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることがあります。

予防接種を受ける前に

予防接種を受ける前に、インフルエンザの予防接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。

気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に医療機関や役場健康衛生課 健康係にお問い合わせください。

予防接種を受けることができない人

- ・明らかに発熱のある人
- ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ・前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱のあった人
- ・全身性発疹(ほっしん)などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- ・今までに免疫不全の診断を受けた人
- ・その他医師が不適當と判断した人

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなくてはならない人

- ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている人
- ・今までに、けいれんを起こしたことがある人
- ・今までに、ぜん息と診断されたことがある人
- ・インフルエンザ予防接種の成分または鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

予防接種を受けた後の注意

- ① 予防接種を受けた後、30分は医療機関にいるなどして様子を観察し、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後24時間は、体調の変化に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ 接種の後、まれに副反応が起こることがあります。
予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、全身のじんましん、繰り返す嘔吐、顔色の悪さ、低血圧、高熱などが現れたりしたら、医師の診察を受けてください。
また、予防接種と同時に他の病気がたまたま重なって現れることがあります。

【新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためのお願い】

☆接種日の前日から、次の症状がある場合は予防接種を控えてください。

- ・発熱（37.5℃以上）がある。
- ・強いだるさ（倦怠感）がある。
- ・呼吸器症状（咳・痰）がある。

☆医療機関を受診する際はマスクを着用してください。

